

[年度] 平成24年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 切り花ハボタンの切り花長確保のための定植時期と電照栽培による草丈伸長効果

[要約] 切り花ハボタンは、定植時期が遅れると切り花長は短くなり、「初紅」は8月6日、「晴姿」は8月16日の定植で切り花長が60cm以上の切り花が得られる。また、白熱電球の照射を行うと、8月16日に定植した「初紅」でも60cm以上の切り花が得られる。

[キーワード] 切り花ハボタン、定植時期、電照

[担当機関名] 農業試験場 栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 花き

[分類] 研究

[背景・ねらい]

切り花ハボタンの栽培では、60cm以上の上物となる切り花長を確保することが重要となるが、特に紅系品種で切り花長を確保することが難しい。このため、60cm以上の切り花長を確保するための定植時期と電照栽培による草丈伸長効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「初紅」、「晴姿」を8月6日から10日おきに順次定植すると、定植日が10日遅れるにつれて収穫時(12月21日)の切り花長が約10cm短くなる(表1)。「初紅」では定植日を8月6日、「晴姿」では8月16日以前としたときに、切り花長が60cm以上の切り花が得られる。
2. 「初紅」、「晴姿」ともに、定植日が早くなるほど切り花重は重くなるが、「初紅」で8月6日の定植で茎が太くなる他は、茎径、外葉径の大きさに明らかな差は認められない(表1)。
3. 8月16日に定植し、定植1ヵ月後から2ヵ月間、早朝、深夜、夕方の各時間帯に白熱電球を照射すると、無処理に比べて切り花長が「初紅」で5~8cm、「晴姿」で5~9cm長くなる(表2)。「初紅」では、60cm以上の切り花の割合が無処理区の56%に対して、95%以上と向上する。
4. 電照の時間帯による草丈伸長効果に明らかな差は認められない(表2)。
5. 電照照射区と無処理区の切り花重、茎径、外葉径には明らかな差は認められない(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本データは288穴セルトレイで14日間育苗した苗を移植栽培した結果である。
2. 電照の処理期間、設置方法は検討を要する。

[具体的データ]

表1 定植時期と切り花ハボタンの品質

品種	定植日	切り花長 (cm)	切り花重 <sup>z</sup> (g)	茎径 <sup>y</sup> (mm)	外葉径 <sup>x</sup> (cm)	上物率 <sup>w</sup> (%)
‘初紅’	8月6日	71.7 c	115.2 b	12.1 b	12.9 a	100.0
	8月16日	59.7 b	99.2 a	11.2 a	13.0 a	56.4
	8月27日	48.2 a	85.8 a	11.1 a	13.0 a	0.0
‘晴姿’	8月6日	83.7 c	130.5 b	11.6 a	12.0 a	100.0
	8月16日	71.4 b	121.3 b	11.3 a	12.7 b	100.0
	8月27日	57.7 a	96.4 a	11.3 a	12.2 ab	30.0

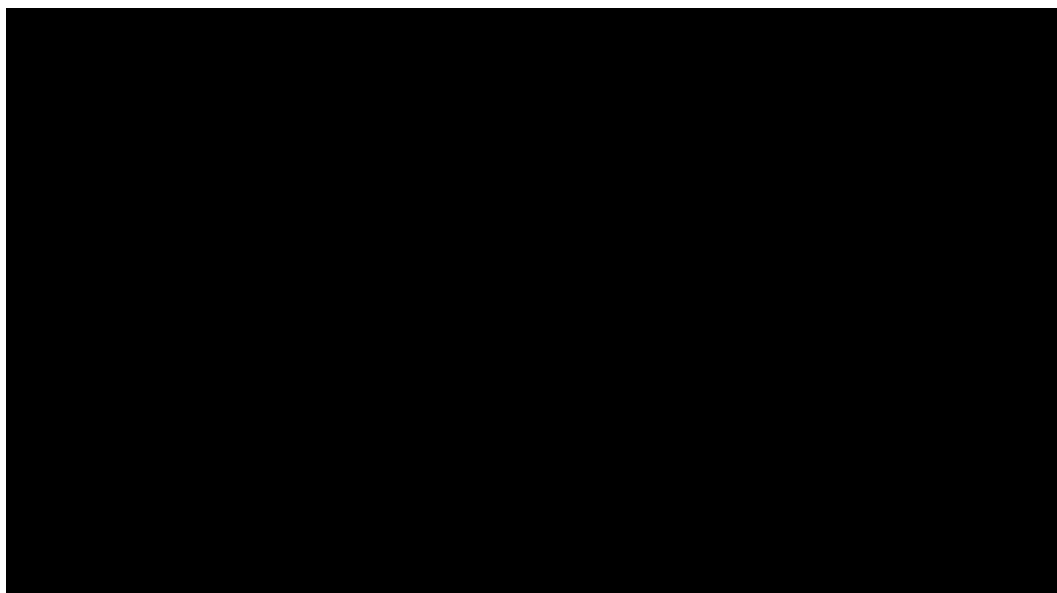
注)288穴セルトレイに播種し、14日間育苗した苗を条間15cm、株間7.5cm、6条に定植、12月21日に収穫  
同一品種内、異なるアルファベット文字間にTukeyの多重比較で5%レベルで有意差あり、n=20

<sup>z</sup> 着色葉と緑色葉3重を残して調製した切り花の重さ

<sup>y</sup> 茎長の中央付近の茎径

<sup>x</sup> 着色葉と緑色葉3重を残して調製した葉の最大径

<sup>w</sup> 切り花長60cm以上の切り花の割合



[その他]

研究課題名：花きの品質・生産性向上技術開発

予算区分：県単

研究期間：平成 23～24 年

研究担当者：宮前治加

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可